

技術士だより

—(株)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター 季刊— 秋季号(平成元年11月5日発行)

◇巻頭言

技術士の活動について 日本技術士会近況

黒瀬 正行
(元支部長・顧問)

「技術士」9月号の記事の中で、プレゼンテーション研究会が、去る8月1日「トラック日本」(株)自動車ニッポン新聞社主催の「チャレンジ物流21」の第2回作品コンクールへ、「移動文化とトラック物流—トラック・ルネッサンスの創造」のテーマで応募し、社会人応募の58点中、唯1点の最優秀作として選ばれた、という報告がありました。

プロジェクトチーム代表前田(衛生工学部門)ほか株本、堀江、伊藤、藤森の技術士が、土・日を利用して討議を重ねて投稿したとのことです。技術士を社会にアピールする最高の機会を得られたことに最大の賛辞を呈したいと存じます。

技術士が自分の専門技術で高い社会的評価を受けることは素晴らしいことですが、異分野の技術士が力を合わせて社会に貢献する、しかもそれが最高の評価を受ける、これ程素晴らしいことはありません。

技術士の社会的評価も徐々に高まり、官公庁の技術士活用施策も前進しておりますが、まだまだ満足できる状態ではなく、地方公共団体で技術士とは何ですかという質問を受けることも少なくありません。

昭和63年度までの技術士試験合格者数2万6千余り、そのうち技術士会の会員は僅か3千6百足らずで、圧力団体としての力は不足であります。上田会長自ら技術士の活用方について各官庁に一生懸命働きかけて居られますが、技術士はまず自らが、社会で立派な評価を受けるよう、あらゆる機会を捉えて努力すべきであろうと考えます。技術士のあり方について一言!

1. 8月23(木)・24(木)の両日、札幌、仙台、東京、大阪、福岡、那覇において実施した。受験申込者総数は13,169名受験者数8,175名受験率62.1%。うち福岡会場では受験申込者数697名で受験率59.8%。

2. 第9回地方公共団体職員と技術士との合同セミナー
主題: 地域整備の新たな展開
—技術交流のあり方を考える
主催: 社団法人日本技術士会
日時: 平成元年10月3日(火) 13:00~19:30
場所: KKR札幌(札幌神楽川44番5丁目)

3. 第19回日韓技術士会議
10月5日韓国・ソウル市において開催。

4. 平成元年度技術士第1次試験
(技術士補選定のための試験)
10月15日札幌、仙台、東京、大阪、福岡、那覇において実施した。受験申込者総数は3,220名、うち福岡会場では315名。

5. 平成元年度部会合同発表会(案)
発表会趣旨: 技術活動に対するニーズは活発さを加え、かつ複雑多岐に亘るため、従来と異なり多くの技術部門にまたがるケースが見られる。この情勢に対応するため、各技術部門からの参加を願い、横断的に成果発表を実施、技術部門間のテクノロジー・トランスファおよび融合化推進をはかる。

推進部会: 合同発表実行委員会
(幹事部会: 機械部会)

日時: 平成元年12月2日(土)
場所: 機械振興会館

6. (株)日本技術士会会員数 4,341名。(8財団)内訳、正会員3,670名、準会員A112名、準会員B 559名。他に賛助会員135名。

<2ページへ続く>

日本技術士会近況(つづき)

7. 9月14日第3回理事会で審査の結果、下記のプロジェクトチーム設置が認可された。

☆(株)日本技術士会プロジェクトチーム

- ① 技術融合センター (昭和62年9月7日設立)
- ② 研究開発センター (昭和45年1月設立)
- ③ 自動化グループ (昭和47年4月設立)
- ④ 商品企画センター (平成元年6月2日より5か年間)
- ⑤ 技術開発研究会 (昭和61年7月28日設立)
- ⑥ 高分子製品調査研究センター (平成元年9月より5か年間)

8. 技術部門の英文表示について

- 機械 Mechanical eng.
- 船舶 Ship & Marine eng.
- 航空・宇宙 Aerospace eng.
- 電気・電子 Electrics & Electronics
- 化学 Chemistry
- 繊維 Textile
- 金属 Metals
- 資源工学 Mining
- 建設 Civil eng.
- 水道 Water Supply & Sewerage
- 衛生工学 Environmental eng.
- 農業 Agriculture
- 林業 Forestry

○水産 Fisheries

- 経営工学 Industrial Management
- 情報処理 Information Processing
- 応用理学 Applied Science
- 生物工学 Biotechnology

9. 平成元年度第2回支部長会議

日時：平成元年9月1日(金)18:00~20:00

場所：オークラホテル新潟

議題：

- ① 第9回地方公共団体職員と技術士との合同セミナーについて
- ② "入会のおすすめ"について
- ③ 会員増強と社会的認知
- ④ エキスパート登録技術士の確認
- ⑤ 県単位技術士のあり方について
- ⑥ 技術アドバイザーの報酬について

まとめ：

- ① 技術士・技術士会のPRと会員増強の方法
- ② アドバイザー・エキスパート等の報酬値上げの運動

私の提言 岡部 九州生(農業部門)

日本技術士会の発展により、第16回全国大会(新潟)の盛会の姿を見て次の如き感想をもった。(反省)

1. 私自身技術士の資格を有することに対して甘えがあったのではないか。
2. 技術士として今後自分自身のPRを拡大する必要があるのではないか。(そのチャンスをつまえて)
3. 魅力ある日本技術士会を育成するには如何にすべきか?
4. その第一として今の地方支部ブロックの構成範囲を考え直し、再検討する必要があるのではないか。
5. 技術士法を検討の上、総意で改正することが必要ではないか。

6. 現在資格審査を技術士会が委託されているが、この機会に強く法改正について科学技術庁にアピールすべきでないか。
7. 各支部の集まりを密にするため会合を増やすべきでないか。
8. 支部傘下の委員の自覚を促すために、その下に支部にマッチした専門委員会を設けてはどうか。
9. 自費で行っているPRに資金面での手当を出せないか。
10. 横の連絡をもっと密にする必要があるのではないか。
11. 会員増加の方策として入会手続きの簡素化とコンピュータ化を計ってはどうか。

技術士会九州支部・九州地方技術士センター
行事・会合などのお知らせ

1. 技術士会九州支部発足25周年記念大会
 中・四国支部と九州支部合同懇談会
 ◎日時：平成元年11月24日(金)12:00~20:00
 11月25日(土) 8:00~14:00
 ◎場所：福岡市博多区博多駅中央街4-23
 ホテルセンテラーザ博多

◎内容：
 [1日目] 11月24日
 (1) 合同懇談会 12:00~14:00
 ① 開会 司会(九州支部 藤 野 耕 輔)
 ② 歓迎挨拶 九州支部長 土居 貞夫
 ③ 挨拶 中・四国支部長 村川 二郎
 ④ 情報交換・懇談
 ・支部組織と年間行事について
 ・PR並びに会員増強対策について
 ・会員の研修について
 ・技術士活性化対策について
 ・産学官との取り組み方について
 ・異業種交流・海外技術交流について
 ・その他
 ⑤ まとめ
 ⑥ 閉会
 (2) 九州支部・センターの25周年記念大会
 ① 大会式典 14:00~15:00
 ・開会の辞 九州支部長 原井 東男
 ・挨拶 九州支部長 土居 貞夫
 ・来賓祝辞 九州支部長 山口 務
 九州支部長 川井 優
 福岡支部長 奥田 八二
 日本技術士会 上田 稔
 中・四国支部長 村川 二郎
 ・表彰式
 ・閉会の辞 九州支部長 安武 敏也
 ② 記念講演 15:00~17:30
 ・開会挨拶 九州支部長 青山 次則
 ・講演「21世紀へ向って九州産業界のビジョンについて」
 講師 九州支部長 山口 務先生
 ・講演「緊縮政局、これからの福岡」
 講師 福岡支部長 益田 憲吉先生
 ③ 祝賀会 18:00~20:00

[2日目] 11月25日
 (3) 吉野ヶ里遺跡見学研修会 8:00~14:00
 博多筑紫口(集合)~バス~三田川町
 吉野ヶ里遺跡~博多筑紫口(解散)

2. 第2回九州地方公共団体職員と
 技術士との合同セミナー鹿児島大会
 ◎大会主題 「地域の活性化に必要な
 技術行政と技術士の連携役割」
 ◎日時 平成元年11月14日(火) 13:00~20:00
 ◎場所 鹿児島市東千石町12-22
 かごしま林田ホテル
 TEL. (0992) 24-4111

◎主催 日本技術士会九州支部
 担当 鹿児島県技術士会
 ◎後援 鹿児島県・鹿児島市
 ◎主な内容
 (1) セミナー 13:30~17:00
 テーマ1. 地域の開発について
 ① 鹿児島県の地域開発活性化対策について
 鹿児島県 藤野 耕 輔 講師 宮崎 茂一
 ② 県土の総合的開発計画について
 鹿児島県 中村 利雄
 ③ 県の社会資本整備の基本構想
 鹿児島県 興 信雄
 ④ 世界のカゴシマ錦江湾桜島を主軸とする大ウオターフロント計画について
 鹿児島県 赤崎 義則
 テーマ2. 新技術の開発と中小企業を中心とする地域産業の活性化対策について
 ① 県の地域産業の活性化対策について
 鹿児島県 元井 達郎
 ② 県の工業技術の現状と課題について
 鹿児島県 今川 耕治
 ③ 発泡スチロールを主軸とする新工業成品の開発について
 九州支部長 原井 東男
 ◎まとめ 九州支部長 原井 東男
 (2) 特別講話
 「世界一周ヨット一人旅」
 講師 迫 正人 先生
 (3) 懇親会 18:00~20:00

3. 支部代表幹事の交代について
 このたび、北九州地区代表幹事高橋興一氏(金属部門)は長期国外出張となりましたので、9月17日地区役員会の承認を受け、山元利治氏(機械部門)がその後任として代表幹事に就任しました。

支部・センター委員会だより

◇ 婦系事務委員会 (水上委員長)

(1) 第1回委員会

日時：平成元年8月5日(土) 13:00~16:00

場所：福岡商工会議所503号室

主な議事：

- ① 年間行事予定(支部長より説明)
- ② 支部季刊誌”技術士だより”の発刊創刊号を今月会員に配布
- ③ 支部・センター会員の入退会および会費納入状況説明。未納者への督促10月頃。

(2) 第2回委員会

日時：平成元年9月7日(木) 12:00~16:00

場所：博多駅東2-1-27 博多第一ホテル

主な議事：

- ① 創立25周年を顧みて-座談会
- ② 記念誌および季刊誌の編集打合せ

(3) 第3回委員会

日時：平成元年10月7日(土) 13:00~16:00

場所：博多駅東2-1-27 博多第一ホテル

主な議事：

- ① 25周年記念誌編集について
- ② 会員増強運動(案)
- ③ 季刊誌秋季号の編集打合せ ほか

◇ 婦 試 験 委 員 会 (政野委員長)

去る8月23日・24日の両日、平成元年度の技術士第2次試験・筆記試験を九州大学防音講義室で実施した。

受験状況 (福岡会場)

月日	技術部門	申込者	受験者		受験率
			午前	午後	
8.23	建設	753 [^]	418 [^]	405 [^]	55.5%
8.24	建設以外	412	279	269	67.7
計		1,165	697	674	59.8

なお、本年度の受験申込者数は昨年度に比べ、17.8%の伸び率を示した。

◇ 婦 事 業 委 員 会 (笠木委員長)

(1) 第2回九州地方公共団体職員と

技術士との合同セミナー開催 <前出>

(2) 関係諸官庁に、11月上旬~中旬を目途に下記をPRおよび陳情する。

- ① 技術士制度PR(国家試験、資格への案内)
- ② 技術士活用の陳情
- ③ 平成元年度会員名簿の贈呈

◇ 婦・センター倉川立25周年記念特別委員会 (原井実行委員長)

(1) 第1回委員会

日時：平成元年8月5日(土) 13:00~16:00

場所：福岡商工会議所503号室

主な議事：

- ① 九州支部・センター創立25周年記念行事について <前出>
- ② 中・四国支部との合同懇談会について <前出>

◇ センター受験対策委員会

(町田委員長)

平成元年度口頭試験対策講座

日時：平成元年11月18日(土) 9:00~17:00

場所：福岡商工会議所501号室,604号室

講座内容：

- 9:00~10:00 口頭試験対策一般
 10:00~12:00 体験発表(前年合格者)
 13:00~17:00 模擬面接試験と講師指導
 (個人別に複数講師が指導)

◇ センター石井修委員会

(矢野委員長)

平成元年9月18日、技術士補センター会員に、技術士補実務研修資料として、各技術部門および選択科目別に下記の通り配布した。

- ① 技術士となるための研修方法
- ② 昭和57~63年度の必須科目および選択科目別第2次試験問題集
- ③ 配布数 90 (内 職2, 監1, 監4, 監54, 権6, 監工4, 監7, 権1, 備理1, 研理9)

<5ページ下段に続く>

❁ 声の広場 地区活性化だより -1- 大分地区

代表幹事・大分県協会会長 原井 東男

1. 平成へと新時代を迎え、今日までの歩みについて主なものを列挙すると
 - イ、1月28日 大分県協会発会打合せ並びに新年会。
 - ロ、3月7日 大分県主催技術移転研修会へ技術士会として参加。
 - ハ、3月12日 技術士2次試験説明会開催。
 - ニ、3月20日 (社)日本技術士会大分県協会発会総会開催。
 - ホ、3月24日 熊本の合同セミナーへ参加。
 - ヘ、3月28日 商工会議所主催エキスパート懇談会へ出席。
 - ト、8月22日 大分県・大分合同新聞主催の、ハイテクと地域活性化国際シンポジウムへ参加。
 - チ、8月26日 大分県協会臨時総会開催。
2. これからのいかにくについて
 - イ、産学官交流会議への参加。
 - ロ、研修講座の開催。
 - ハ、支部行事への積極的参加。
3. 会員の現況をまとめてみると次の表とおりで、これから類推されることは、

業種	A	B	C	D	計
電気		1			1
建設	10	2	2	2	16
水道		1		1	2
農業	2	3	2	2	9
理工	1				1
研究	2		1		3
計	15	7	5	5	32

- ① 九州在住の技術士は、全国有資格者の1/100に過ぎず、大分県はまたその1/10である。
- ② 先端技術関係の技術士は中央に集中しており、九州の中では福岡・北九州地区に集まっている。
- ③ 中・南九州地区は1次産業主導の産業構造となっており、県の特性がうかがわれる。
- ④ 以上の推測から、大分地区臨海工場群を核とした異業種交流・情報ネットワークによる新規事業の開発、下請関連会社への先端技術移転による企業の活性化など、技術士の活動の場を拡げていく必要がある。

<委員会だより続き>

◇センター活性化委員会

(江崎委員長)

第1回委員会

日時：平成元年8月19日(土) 14:00~17:00

場所：博多第一ホテル

主な議事：

- (1) 委員会の経過報告
- (2) 本年度行事計画
- (3) 会員の技術抄録集作成について
募集・作成準備中
- (4) 次回委員会 9月20日
活性化の一貫として、なお海外技術交流を発足させるため、国際協力グループ活動を本格的に展開させること、またそのスケジュールなどについて協議する予定。

<委員会だより 終わり>

4. 大分県協会の目指すもの

前述して来たように、大分県の活性化は多くの問題点があり、これからというところである。

我々技術士も地域の振興に密着した業務の拡大を計るとともに、社会的地位の向上を目指したい。

また、次代を担う若き技術士を育成する義務を痛感している。 以上

★投稿を募る★

技術士の主張・賛助会員(会社)の紹介など、技術的または一般的なご意見について、会員の皆さんの投稿を募ります。
(1編当り20分~20~30分程度、事務局宛)



行事レポート(1)



◇第16回技術士全国大会に出席して

町田 貞徳 (電・電研)

私は新潟で行われた第16回技術士全国大会に参加させていただきました。

第16回技術士全国大会の参加者は400名を越え、全国大会始まって以来の最大規模となり、成功裡に終わりました。九州地区からも20名の方が参加され、九州内ですれ違ったに顔を合わさない同志の方々か新潟に地において親しく懇談し、胸襟を開いて楽しいひとときを過ごすことができました。

大会の内容については技術士会誌で紹介されると思いますので、私なりに強く印象に残った諸氏の提言について簡単に報告いたしますと、『技術士は常に活火山でなければならぬ。即ち、終生学び続けなければ生きて活動ができない。技術士としての「誇り」と「権威」を保つために、年収の一定額を技術力向上に投資しようではないか。』と提言された坂田俊之氏。

『高齢化社会を心豊かに過ごすために、自分が配慮していることは次のようなことである。即ち、①健康であること②今はハイテク時代だから、常に好奇心をもってハイテクの技術動向に留意し、自らの研鑽に努めること

③資格に安住せず、専門に立て籠もらず技術士同志お互いに助け合い、異業種交流を越えて異業種融合の心が必要④これからは相手顧客へのサービスの心の時代 give & take または give & give で PHP (共存共栄) を進める時代、顧客と連名で特許を取るアイデアのサービスが大切、以上を心掛ければ、老後も心豊かでよくよせず健やかに過ごせる。78歳の現在でも、判断力は若者に負けない。』と発表された田中郁雄氏。

『日本には現在活躍中の技術士が約2万人居るが、その8割が企業で働いているいわゆるサラリーマン技術士である。企業内技術士同志が積極的な異業種交流を行うとともに専業の技術士の方も異業種交流に参加して議論を交わし、自分自身の技術の幅を広げ、技術ノ

力を向上させようではないか。日本技術士会はその最適な交流の場である筈であるし、またあらねばならない。』と提言された藍光朗氏。

特に藍氏が、企業内ノウハウ、学会と技術士会との差等の問題の討論に際して述べられた『異業種交流の場ではノウハウで無いものを発表すればよいではないか、企業内技術士でも専業技術士でも構わないではないか、自分の専門以外のことから何でも技術力の向上に役に立たせればよいのではないか。』との提言に同感いたしました。

以上のほか、同感あるいは感服した提言は沢山ありましたが、紙面の都合もありますので、その他の紹介は省略いたします。

新潟の印象につきましては、まず、降雪の多いところであり、そのための対策、即ち、道路の整備・除雪・道路情報のドライバーへの提供等、南国九州と異なる技術のニーズを見聞しました。

次に、新潟地震の痛い経験から、地震対策に相当の神経が払われておりました。

第3に、新潟はソ連への玄関口であることです。新潟空港ではソ連のカタログが置かれており、日本の平和を実感しました。

新潟の特産品は米菓子と、キングサーモンを原料としたかまぼこのようで、特にかまぼこは原料が100%産地であり、非常においしいものでした。

稿を終えるに際して、昨年別府でお会いし、新潟で再会を約した全国からの技術士の方々とも会えまして新潟に行って良かったと思っています。それで、来年四国で行われる全国大会を今から楽しみにしております。

以上



行事レポート(2)



◇新潟大会に出席して

川野 宏平(農業部門)

第16回技術士全国大会は、「科学技術の限りなき発展へ」をテーマとして、北陸の水都新潟市にて開催されましたが、参加人員は技術士285名、技術士補40名、同伴者77名、計402名の多数となり、近年にない盛況ぶりでした。

九州からは技術士15名、同伴者5名計20名が出席し、大会を盛り上げた次第です。

秋雨前線の停滞する新潟地方は朝から曇り空で、午前11時頃から雨が降り始めましたが、大会は市内の”オークラホテル新潟”で、予定どおり開催され、午前中は”技術士私の主張”、”技術士補の広場”など熱心な討議があり、午後は0時30分より、分科会、分科会報告、新潟大学名誉教授茅原先生による記念講演、記念式典、懇親会と盛り沢山のスケジュールで進行し、午後8時30分頃盛会裡に終了しました。

この日は私にとって充実感溢れる一日でした。特に分科会にて、熱心な提言、積極的な質疑がありましたので、要点だけをここに報告いたします。

まず提言(1)としまして、先端技術と企業内技術士の役割について、機械部門の方からお話がありましたが、現在日本には2万人を越す技術士が各産業で活躍していますが、その8割以上が企業内で働いている、いわゆるサラリーマン技術士であり、この者は企業内で中心的存在として、技術開発に活躍しています。専門技術士これに参加して、積極的な異業種交流を行い技術力を向上させようというのです。その他、”日本活性化のための地域再生と技術士の役割”や”魅力ある技術士業務の創造”等々9名のパネラーの方々から提言があり、質疑応答がありました。その討論が白熱するうち、いつしか話題は、技術士とは何か。技術士制度の法改正をとて欲しい。等々の逆提言が飛び出して、パネラーの方も問題が大きすぎるとして回答もなく、熱気のうちに閉会となりました。第1分科会も第2分科会と同じく、図らずも同一話題となって、

しまったのです。今技術士はその在り方を真剣に考えているようです。私も最近、技術士とは何かを考えている一人ですが、次のように考えてみたらどうでしょう。技術士業務はタイトルがあるからといって、先方から仕事か飛び込んで来る程世間は甘くない。だから自らが努力して、優れた技術力や技術士としての信頼性や品位等を身につけることにより、問題解決に近付くのではないだろうかと考えています。

次に研修旅行は2泊3日の佐渡コースに参加しました。参加人員は97名で、その内72名は婦人同伴組です。全員の方が佐渡は始めての方ばかりで、2台のバスに分乗しての旅行になりました。時速80kmの超高速船ジェットfoilで海上を滑るように進行して60分、佐渡の両津港に着いたのが9月3日の午前11時でした。この日も秋雨がしとしとと降っており、雨の佐渡の旅でした。

新潟市から68kmの日本海に浮かぶ佐渡が島は、古くは流人の島でありました。順徳上皇、僧日連、冷泉家藤原為兼、観世流家元元清など中央の文化人が数多くこの地に流されたのですが、私達が訪ねた観光史跡の殆どはこうした流人文化の史跡でした。松尾芭蕉が”荒海や佐渡に横たう天の川”と詠んだ雄大な大自然の彼方には、寂寥たる人生が埋もれていたわけです。宿舎の大佐渡ホテルや、八幡館で見せてもらった”佐渡おけさ”は佐渡金山に送り込まれた無宿人たちによって歌われた鉱山哀歌にはかならず、心無しか、歌に、踊りに、哀愁をおびているようでした。また、佐渡は美しい海岸が多く、人口8万人、海岸線総延長240km、主として農業と漁業に生きる島ですが、9月3日は新潟交通観光バスにて佐渡金山、尖閣湾、清水寺、根本寺、七浦海岸を訪ねて相川町春日崎のホテル大佐渡に宿泊しました。この日尖閣湾の達者部落で昼食したときのこと、土居支部長さんと海岸の店で食べたサザエのつば焼きは、新鮮で、一入美味しく、今も忘れられない味でした。

翌4日は、真野湾を展望する真野御陵、小木町の”たらい舟”、連華寺、国分寺、妙宣

会員ニュース

<行事レポート (2) つづき>

ノ寺、それにアルコール共和国(酒造場)を訪ねて、八幡温泉の八幡館に宿泊しました。

真野御陵にて順徳上皇辞世の句に”思いきや雲の上をばよそに見て真野の入江に朽ちてんとは”と詠まれています。承久三年(1221年)のその昔に思いをいたし、人の世の生きる厳しさをひしひしと感じた次第です。ホテルでは温泉にゆっくりと浸り”佐渡おけさ”や”鬼太鼓”など楽しみながらの夜でした。

9月5日は最終日にて、佐渡スカイラインへとバスを走らせ、好天に恵まれ、白雲台からは両津市、国仲平野、真野湾を展望することができました。佐渡が島に国仲平野のように、4千ヘクタールもの水田地帯が存在しようとは予想もしておりませんでした。素晴らしき眺めでした。佐渡スカイラインを下って両津市に近い無名異焼窯元を訪れ、ここで小さなお土産を求めて佐渡の旅は終わりました。両津港からジェットフォイルにて新潟市に着いたのが午後1時30分でした。新潟駅にて解散、本当にお疲れさまでした。

楽しい、実り多い技術士全国大会でてしたと感謝しつつ、支部長の土居さん、鹿児島の上野さんと3人で新潟駅構内にて、ささやかにビールで乾杯し、新幹線の人となりました。(おわり)

☆(独)日本技術士会(九州支部)入・退会

(区分)	(地区)	(氏名)	(職業)
入会	北九州	武田 正紀	建設
"	鹿児島	郡山 匡良	農業
"	北九州	児玉 久	応用理学
"	福岡	高田 寛	建設

☆九州地方技術士センター入・退会

入会	退会	氏名	職業
佐賀	原田 彰	建設	
鹿児島	西田 湊	水道	
宮崎	小川 康夫	建設	
鹿児島	郡山 匡良	農業	
大分	佐藤 全良	"	
福岡	野上 晃	水道	

-以上受付順、敬称略-

☆会員住所変更

- 田島 積 (機械)
自宅 〒807 北九州市八幡西区貴船台13-37
① ② TEL (093) 603-8925
FAX (093) 603-8926
- 小川 康夫 (建設)
勤務先 日本道路(株)九州支店宮崎営業所
TEL (0985) 39-7080
自宅 〒880 宮崎市下北方町役田763-1
フレグラス大宮A101
① ② TEL (0985) 29-2883

◇会誌”技術士”最近号の主要目次◇

☆8月号

- ・開発と問題解決の方法/斎藤 陽
- ・JOISの概要-接続からその利用まで-(4)/斎藤 和男
- ・台湾派遣専門家の募集について

☆9月号

- ・地域技術振興による都市火り/山田 秀雄

- ・回分操作の勧め/森 大作
- ・造成地盛土工事の施工管理について /低引 洋隆

☆10月号

- ・第16回技術士全国大会報告
- ・研究・技術開発と工業化を効率化させる手法/廣川 一男
- ・重厚長大から軽薄短小へのコンサルティングから見た私の体験 /藤縄 勝久

◇糸編集後言己

編集のむずかしさ、”おおごと”さを、ますます実感しております。何はともあれ、情報を少しでも多く伝えて、支部の発展と会員の皆様の交流の場にと、看板だけは高く掲げたつもりで、実のところ指先の運動と、脳のしわ伸ばしにもなると励んでみました。

ノいつになったら”あかぬけ”するか。皆様の暖かいご声援をお願いいたします。(小)

発行 (独)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター/〒810 福岡県北九州市門司区1-12-61 新井ビル402 ☎(092)771-9534 編集 総務委員会